

【研究発表, 実践報告】

第6回研究会「発表原稿」執筆の手引と作成例

— 書式とテンプレート —

Guidelines and Example for the 6th JAIE Conference 2023 Manuscript Creation: Form and Template

山田太郎^{†1}, 鈴木花子^{†2}
YAMADA Taro^{†1}, SUZUKI Hanako^{†2}

キーワード: 情報教育, 手引, 書式

Keywords: Informatics Education, Guideline, Format

1 はじめに

著者は、このテンプレートファイルを使用して、発表原稿（以下、「原稿」と呼ぶ）を作成する。この手引自体が原稿作成例となる。

使用ソフトウェアはWindows版のMicrosoft Word2010以降を推奨する。Macintosh版Microsoft Word, 一太郎, KINGSOFT Officeなどを使用しても構わない。

このテンプレートファイルでは、マージン、フォントの種類やサイズなどの書式が設定されている。

文章の区切りは、全角の読点「,」と句点「。」を使用する。括弧も全角文字とする。本文中の文字の書式は明朝体を使用し、章節項については、ゴシック体を使用する。段落の冒頭は1字分あける。

原稿を投稿する前に、個人情報への配慮がなされていることに注意する。特に、人物が写っている写真が含まれている場合、対象者の肖像権に配慮する。対象者が複数の場合は、どの場面を原稿に使用するかを提示した上で、著者はすべての対象者から、複製権と公衆送信権の許諾を得る必要がある。

2 発表資格

筆頭著者は、発表申込時点で本学会の会員でなくてはならない。連名発表の場合、全員会員であることが望ましい。なお、研究会への参加は、会員・非会員を問わない。

2.1 原稿提出期限

原稿提出期限は2023年7月20日（木）である。

2.2 参加申込期限

参加申込み期限は2023年7月31日（月）である。

2.3 参加費・発表費

参加費・発表費は3,000円である。

3 研究発表

3.1 研究発表テーマ

情報教育およびその関連分野の進歩普及に貢献に関連したテーマである。第6回研究会のサイトで示すテーマとする。

3.2 発表種別

発表種別は「研究発表」と「実践報告」の2種とする。

。「研究発表」と「実践報告」の原稿を発表論文集に採録するが、そのための査読は行わない。但し、表記・構成可読性等の視点から修正を求めることがある。

3.3 枚数(ページ数)

「研究発表」と「実践報告」の原稿の枚数は、本文と注、参考文献、付録をすべて含んで、2ページ以上10ページ以内とする。

3.4 構成

「研究発表」と「実践報告」の原稿の標準的な構成を以下に示す。

- (1) 緒言（研究の背景・目的、文献調査による研究または実践の位置付け、内容の概略説明など）
- (2) 主部（理論、実践およびその結果、結果の解釈および考察など）
- (3) 結言（得られた結論など）
- (4) 参考文献など

3.5 形式

3.5.1 書式

原稿はこのテンプレートの書式に従って作成する。

3.5.2 キーワード

氏名の下に2つ以上5つ以内のキーワードを和文、欧文両方で記載する。最初の文字は大文字にする。

3.5.3 表, 図, グラフ, 写真

表, 図, グラフ, 写真は、本文中にキャプションを付けて埋め込む。

図のキャプションは、「図1」で示す通り図の下に中央揃えで配置する。また、図の上部とキャプションの次行に、それぞれ空行を設ける。なお、グラフと写真は、図として扱う。

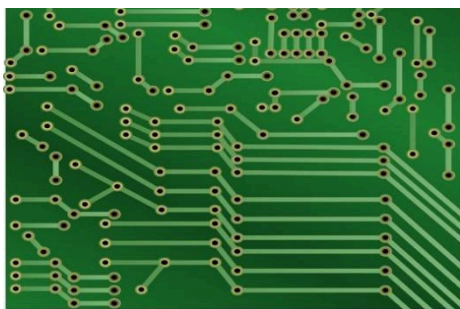


図1 本文中に挿入した図

表のキャプションは、図の場合とは異なり、「表1」の通り、表の上に中央揃えで配置する。

表1 本文中に挿入した表		
	日本	世界
情報	3,14	1,592
教育	6,535	8,979
学会	3,238	4,626

(単位:人)

原稿では、原則として著者が作成したオリジナルな図表を使用する。著作権処理が必要な場合は、原稿提出前に著者の責任において行う。

3. 5. 4 注と参考文献

注は脚注とする。ただし、最小限に留める¹。

本文中に文献を引用する場合、文末に上付き文字で、半角サイズのアラビア数字で記した通し番号を、片括弧に収めて記載する¹⁾。同一センテンスに参考文献が複数あるときは、通し番号をカンマで区切って記載する^{2), 3), 4), 5)}。

【参考文献】欄に記載する文献は、本文中で引用した文献のみとし、通し番号順にまとめる。

欧文での巻・号の記載は、それぞれ「Vol.」「No.」と略記する。雑誌名の各単語の最初の文字は大文字に、欧文の雑誌名や書籍名はイタリックにする。

著者が4名以上の場合、4人目以降を、和文の場合は「ほか」、英文の場合は「et al.」と略記できる。

3. 6 二重投稿の禁止

3. 6. 1 二重投稿の禁止

公開済みの論文または著者が他の学会等へ投稿中の論文と同一内容、または極めて類似した内容の原稿を提出してはならない。

4 原稿の提出

4. 1 提出する原稿の形式

完成原稿を次の形式のファイルで提出する。

(1) PDF形式(.pdf)

(2) MS-Word形式(.doc, .docx)

なお、MS-Wordで作成していない場合はWord形式の提出を求めないが、PDF形式のファイルは必ず提出する。

4. 2 原稿の提出方法

完成原稿のファイルを、参加申込時のフォームからアップロードする。

5. 原稿の公開

5. 1 著作権

「研究発表」「実践報告」の原稿の著作権は原則として著者に帰属する。

5. 2 著作権使用の委託

著者は、原稿の著作権の一部(複製権、出版権および公衆送信権等)の使用を本学会に委託するものとする。なお、著者自身が自らの用途のために原稿を公開することに制限はないが、本研究会の発表原稿である旨を明記する必要がある。

5. 3 原稿の公開

原稿は複製して『第6回研究会発表論文集』に収録し、Web上で公開される。著者は全員これに同意したものとする。なお、紙媒体の発表論文集は発行しない。

謝辞

謝辞があれば、ここに記載する。

【参考文献】

- 1) KANOHI Hiroko (2013), Development of MMRS (Mind Map and Relief System), an Information Sharing System for Children's Safety, *Procedia Computer Science*, Vol. 22, 762-771.
- 2) 加納 寛子 (2008), 子どもの安全に関する情報の効果的な共有システムの開発—MMRS (Mind Map and Relief System) の開発とその使用感について—, 日本教育情報学会誌 教育情報研究, 23巻, 4号, 3-16.
- 3) 加納 寛子, 加藤 良平 (2008), ケータイ不安-子どもをリスクから守る15の知恵, NHK出版, (東京).
- 4) 加納 寛子 (2013), ネットいじめの現在, 現代思想, 40巻, 16号, 青土社, 229-239.

付録

付録があれば、ここに記載する。

¹脚注が長くなる場合には付録として記載。